

小規模
図書館
奮戦記

その233

南極・昭和基地図書室

南極・昭和基地の図書室



南山泰之

昭和基地に「図書室」が公式記録として登場したのは33次隊（1991～1993年）のことであるが、隊員が個人的に持ち込んだ蔵書は1次隊の頃からある。詳細は不明であるが、有志による持ち込み、観測隊が購入した図書、あるいは国立極地研究所の図書室（当時は国立科学博物館極地学課：後に極地観測センターに改称）から送り込まれた書籍が基地に点在する書架に並んでいる。種別は、観測隊の報告書はもちろんのこと、学術雑誌、一般科学雑誌、学術書、文学書、娯楽書など多岐にわたっている。

上述の通り、「図書室」は設備・施設の一つとして認識されてきたものの、実際の書籍は管理棟内の隊長公室、書庫・庶務室、食堂、通信室、機材・薬品庫、各居住棟の倉庫、各観測棟などに分散して置かれてお



り、「図書室」という空間が存在する訳ではない。しかしながら、その機能に対する要望、すなわち「書籍を管理された状態におきたい」という要望は時折挙げられていたようで、文献をたどると、35次隊（1993～1995年）の頃、「昭和基地の建物増設に伴い図書・雑誌等が食堂、隊長室、その隣のエレコンパックに分散されたため、辞書・辞典類、参考図書、学術雑誌に限り、管理しやすいうように、リスト等の整備をすることになった」とある。だが、ここではリスト整備は実現せず、33次隊・34次隊（1992～1994年）で提唱されていた古い学術雑誌や利用頻度の低い図書の持ち帰り、最新の百科事典・年鑑・辞書類の常備に留まったようである。

*

時代は進み、43次隊（2001～2003年）では神山隊長を中心にリスト整備の機運が高まった。ここでは分類・置き場所・廃棄など、総合的な管理体制を作成するめどを立てられるようにすることを目的に、①書籍のデータベース化とラベルの作成、②書籍リスト一覧の印刷、に取り組んだ。当時は完全なリストの作成まで到達しなかったものの、FileMakerを用いたデータベース化およびラベルの貼付など、大変な情熱を持って取り組んだ様子がうかがえる。

残念ながら43次隊の後しばらくリ

ストの更新は途絶えていたが、49次隊（2007～2009年）にて管理すべき書籍のポリシーを定め、55次隊（2013～2015年）では隊長室に置くべき蔵書を選定して持ち込むなど、断続的ながら整備の取り組みが続けられていた。56次隊（2014～2016年）になり、今後の書籍管理を明確に行うため、三浦越冬隊長自らが主導して「昭和基地の図書・雑誌の整備と管理システムの構築」計画を策定し、国内関連部署と連携しながら整備を進め、2016年1月末に大方の整備が完了した。現在では、国立極地研究所情報図書室のOPACから昭和基地図書室の蔵書検索ができるようになっており、今後の計画的な書籍の持ち込みへの活用が期待される。

■昭和基地図書室

南緯：69度00分25秒

東経：39度35分01秒

問合先：国立極地研究所情報図書室

所在地：東京都立川市緑町10-3

☎042-512-0649

利用時間：9:30～17:00

休室日：土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始

ウェブサイト：

<http://www.nipr.ac.jp/library/>

(みなみやま やすゆき)

国立極地研究所情報図書室

[NDC10：018279]

BSH：昭和基地図書室